特252
207

創造創設のソビエツトロシア

田中丸祐厚

時局問題研究會

始

特252
207

創造創設のソヴエートロシア

最近ロシアに滞在した自分は至る處で色々のスローガンを見た。 その中で最も自分の注意を惹ひたものに次の二つがある。

一、各人は彼が一般的事業を創造する爲に呼出された事を理解すること緊要なり。

各人は彼が大いなる歴史的事業の參加者たる事を理解する時彼は之を以て誇となさん。

二、追付け追越せ

第一のスローガンには現今ソヴエートロシアの人々が如何に世界的創造創設を理想として之が實行に專念精進し、その爲には幾多の犧牲を拂ふ事をも

厭はず却つて之を以て自分の誇としてゐるかと云ふことが窺はれる。第二の文句を解剖してみるに、世界大戰及之に續く國内の爭亂等の爲にロシアは工業、產業、其他全ての點に於てその復興が後れてゐる、それなくともロシアは北歐に於ける一個の未開國とさえ呼ばれてゐた國であるが現今彼が各國の文明の程度に追付くと云ふ意味が之に現はれてゐる、予が特にこの文句を掲示した理由は「追付け」と云ふ點でなくして、「追越せ」といふ新興ロシアの意氣の壯んな處を採つたのである。追越せとはレコードを破ることを意味してゐる、今日ソヴエートロシアが全ての點に於て創造に創設に、或は從來の世界的レコードを破ることに努力しつゝあるその實例を次に擧げてみ度い

と思ふ。

先づ國家の機構は勞、農、兵の三つをその組成分子として擧げてゐるが、ソヴヱートロシアは資本家を認めず、土地、山林、其他地上、地下、空中の凡ての生産的基礎となるものは皆國有と定められてゐる、從つて個人的に或一ケ所に資本が偏在することを許さない、從つて資本家の介在の餘地がない之れも世界に類なきソヴヱートロシアの創造と云ふべきである。

商業

或國家の政府自体が自ら手を下してその國内、國外に於ける凡ての商取引を一手に行つた國が世界に嘗つて存在したであらうか？

ソヴヱートロシアは正にその最初の例

と言ふべきである、即ち彼の國に於ては資本國に於けるが如き自由競争制を許さず國內取引の九五％及、國外取引の一〇〇％迄で完全に政府の手に在り、商取引の全部がその管理の下にあるのである。國內取引に於ては帝政時代から存在したツエントン、ソユーズの制度を更に擴張したる、勞動の各機關に屬する食物物資の配給所、消費組合が大部分の國內取引の役割を演じてゐる。最近商品の配給を普遍化する爲に政府は小賣店の増設に努力してゐるが一九三〇年十月に一一四〇一であつた小賣店が三一年度の同月には一七五八〇に増加してゐる。この外にツエントルソユーズの賣店が六七五八あり、かくして國內の取引は國家統制の下に行はれ、國營以外の個人の店と稱するも

のは當局の鑑札を受けて市場で販賣をなす小規模の店で屋臺車の路傍商人もこの中に含まれて居る。

國外取引の現狀を見るに之は完全なる國家の管理であつて、この制度こそは資本國に嘗つて試みられたことのないソヴエートロシア創造の制度であるその特徴の一は世界の各商業地又は貿易港にその國の承認を得たる通商代表或は之に代るべき機關を派遣し、凡ての取引が之等の代表の手を經るといふことである。例へ通商條約が結ばれてゐない國で代表の駐在を認めぬ場合があつてもソヴエート政府は當該國の法律で設立せられたる會社と提携し或はその大部分の資本を投資すること等に依つて事實上ソヴエート政府の通商代表の働きをその國の會社名義の許に

なさしめてゐる。英國に於けるアルコズ株式會社及ロンドンソユーズ株式會社等はその一例である。

而して貿易上の信用を保つ爲には、凡て通商代表の名に依つてクレジットが發行される。通商代表が發行するクレジットはソヴエート政府のクレジットである。故に通商代表の發行した手形が不渡りになることは、直ちに「ソ政府が世界的に破產狀態に陷ることを意味するが故に通商代表の手形が各國に於て不渡りを見た如き事は嘗て一回も聞かない。私は三菱に在職中、對露貿易の振興を盛に主張したものであるが、一九二四年頃三菱の幹部がソヴエートロシアに對する認識不足の爲に、又その通商代表の手形に對して、日本內地の銀行が割引しないといふ事情も

あつたので傍々ソヴエートとの取引を躊躇したのであつた。當時私は英、米獨、佛各國に於けるロシアの通商代表が發行せる手形の發行高及不渡の有無に就て調査をなしたが、在外支店よりの報告によると前記四ヶ國共、從來の不渡にならなかつたことが明らかになつた。且つ米國のクレジツトは當時五千萬ドルに、英國は五千萬ポンドに達してゐたことを知り得たので之を基礎として再三協議を重ねた結果、日本駐在最初の通商代表ヤンソン氏と三菱商事との間に期間六ヶ月百萬圓のクレジツトが結ばるゝに至つた。この事實は當時、貿易商及一搬實業家に一つのセンセイシヨンを興へたのであつた。其日ソ兩國間の貿易は益々増加して、一昨昭和五年の如きは四千萬圓を突破す

るに及び、我が當局は輸出補償法の金額増加を考慮するといふ位である。斯くの如く通商代表の信用といふものは**ソヴエートロシア**自体の信用によつて基礎づけらるゝものであるが、**ソヴエート**の産業の進展に伴ひ、世界各國の彼に對する**クレジット**は大きくなつた最近歸朝せる**モスコー**駐在、川谷商務官の談によると同地駐在八ヶ國の外國商務官の會合に於て、**ロシア**の支拂は確實であると云ふ認定がなされた由であるが、之は**ソヴエートロシア**の信用を裏書するものであると思ふ。

第二の特色は、世界各國の特産物は他國の仲介を經ずして直接當該國駐在の通商代表の手に取扱かはれるといふことである。特産物に對する直接取引の方法は所謂**コンミツシヨン**制度を絶

對に防止する主義より出たソヴエートの創造になる新らしき試みである。之について私自身が經驗した一例は、極東政府が砂糖の注文をなした際臺灣の精糖と爪哇の白糖を見本として提示したことがある。その時は「ソ」側は臺灣の精糖については交渉を進めて來たが爪哇の白糖に關しては省みない、故にその理由を尋ねると爪哇の特產品について日本の手を經ることは禁じられてゐるといふのであつた。又カムチヤツカに於ける、「ソ」國營工場の鑵詰の賣買について相談をなしたことがあるが、その鑵詰を日本に持つて來た場合は、日本駐在の通商代表と交渉しなければならぬこととなつてゐる。これと同樣に、英國に輸出されたものについては英國に於けるアルコスとの交渉

を要するといふ關係にあるのである。

ハ、第三の特徴は輸出入のバランスである。之は本來ソ國の方針としてある所謂ミユーチユアルサービス（相互主義）を徹底的に行ふことであつて貿易に於ても相手方に賣り込んでその受ける代金を以て相手方より物品を買取ると云ふ方法である、故に關税率の變化等により從來の輸出が減ずればその國よりソヴエートが買付けるものも必ず減ずるといふ相對的なる結果が必然的に起るのである。

この輸出入のバランスを決済する爲めには農產物其他石油、石炭の如き物資を出來るだけ多く輸出する。自國の消費には不自由を感じても輸出を餘儀なくさせられてゐる、この結果をして一般的に國內に於ける物資の缺乏が頭

題となる。事實物資は缺乏してゐるらしいが、この現象に對してはソ政府要路の人は、産業立國の過渡期に於ける尊き犧牲であると稱して自ら慰めてゐる。

この故を以て、現在ソヴエートの貿易は、所謂輸出の爲の輸出に非ずして輸入の爲の卽ち、バランスを決済すべき爲の輸出である。その決済の時期が假に差迫つてゐる場合には、その輸出品が外國の市場に於て投げ賣りされることも止を得ない。之がソヴエートがダンピングをやる隱れたる理由である一昨年小麥のダンピングをやつて紐育の市場を震駭せしめたことがある。一ブツシユル一ドルを割つた事のない小麥の相場が現に五〇セントになつたのも怖るべきロシヤのダンピングの爲

であらう。この種のダンピングに對してロシアの眞意が色々に揣摩憶測された、或者は資本家に對する反感の故であるといふ。或は幾分その意味が含まれてゐるかも知れないが、私は之を全部首肯することは出來ない。何となれば、例へば小麥にすれば、政府がコルフオーズ等から買上げた價格迄に賣れば何等の損失を蒙ることがないからである。ソヴエートのコーストカルキユレーションには第一金利といふものが含まれてゐないと云ふてもよい、第二は運賃である、鐵道、商船も國營であり、假にその運行が中止されてゐても之の從業員は國家が之を養ふ義務がある、從つて平時に於ては單獨採算經濟制度によつて各機關がその成績を上げん事に努力する結果が之の運賃につい

ての採算をしなければならない。然し國家的重大な時機に際しては之等の運賃の如きものは採算に加へない。況んや資本國に於ける如く仲介商人の手數料の如きは全然採算に入らない。かく考へて來ると、結極政府は買上げた値段に於て賣れば何等損失はないのみならず、之の値段迄には賣放す力を持つてゐる。之はダンピングに對する私の見方であつて、他の批評家と私の意見が一致しない點である。

斯の如く如何なる手段を用ひてもその輸出入のバランスを採る主義であるから、彼の國に賣込むには彼國の產物を買付けるといふ建前でなくてはならない、又、既に他の國より買付けてゐる物資を更に我に振り代へさせるには技術上乃經濟に於て特徵、利益あること

を專門の技師が親しく彼の國に出かけて說明する必要があると信ずる、その次には長期の**クレジツト**を開くことである。

ソヴエートは之の國自体の生產高に應じ輸出能力に應じて外國から買付をなすのであるから、其年度に輸出能力の餘裕がなければ、其以上買付けない。自然**クレジツト**を長くする必要がある斯の如くして始めて**ソヴエートロシア**に對する貿易の前途は進展を見るであらう。

以上述べたる如く**ソヴエートロシア**に於ては商業を國家自ら統制してゐる、今日資本主義の諸國は經濟不況の極に惱んでゐてこの打開策が各方面に考究せられてゐて特に外に向つては關稅政策を採り內には物價の値上げを講

むしてゐるが、世界共通の資本主義原則に於ては之が打開は殆んど畫餅に屬すると思はれる、この際國家の商業管理といふことに注目したのが、紐育洲知事のルーズベルト氏である、同氏の持論としては

各國家が同時に同程度に經濟不況に陥つてゐる場合、之を打開すべく國際的に關税政策を採り國内に於て物價の値上げを行つても、各國が同じく之をなす以上需給關係に於て値上げの出來る理由がない、かゝる場合には世界大戰の如き經濟市場破壞或は經濟中心の動搖がない限りは、この不況打開の途はない、然しソヴエートロシアの國家の商業管理制度に倣ひ、米國合衆國を通じて實行不可能なれば、せめて紐育洲のみにても

商業管理を試むれば、必ずやこの不況の救ひとなるであらう。

といふのである。こゝに序で乍ら一言したきは、從來の資本主義を基礎とする經濟學は生産經濟學卽ち、資本といふ生産機關を以て收益を目的として投資し、生産する經濟學であつたが、ソヴエートロシアに於ける經濟學の基礎觀念は生産になくして消費にあるといふ事である、消費經濟と云へば、收益を目的とせず、人類の生活に必要なる消費物を最公平に同量、同價に普及せしめることが目的であつて、生産機關たる土地、森林其他を國有とし之に勞働者の勞働力或は機械力を加へ、然して之の生産したものを人類に如何に消費せしめるか、如何にして公平に分配するかの關係に重きをおいたものであ

る。消費を目的とする經濟學に於ては生產過剩といふ如き非生產的、非經濟的の蓄積を結果しない。この經濟組織に於てはその生產の數量が常に消費力を以つてターミネイトせらるゝ爲めに生產過剩に據る極度の物價下落、或は生產不足に據る騰貴といふ變動がない筈である、極端に云へば、この消費經濟の組織は大古の原始生活に類似してあるとも想像される、國家を一個の會長の家族團体と見、人民を之の家族と見て、會長は自巳が所有する或は管轄する領土から家族の消費力に應じただけの生產をなさしめるといふ生活狀態に似てある、斯の如き生活狀態にては物々交換が主たる取引であつて交換の仲立をなす貨幣制度が必要とされない現在ソヴエートロシアに於ては近き將

來、國内流通の貨幣を全廢するといふ主義さへも有してゐる位である。

以上述べたる、商業の國家管理、これに伴ふ消費基礎の經濟組織、引いては貨幣を必要とせぬ物々交換の制度は紀元前の民族爭鬪時代に於ては知らず輓近文明國を以つて稱する歐米各國に之の類例を見ないソヴエートロシア獨特のものではあるまいか。

了

終

昭和十一年七月十三日 納本
昭和十一年七月十七日 發行
編輯發行兼印刷人 西尾秀太郎
東京市板橋區板橋町3の269
發行所 時局問題研究會
東京市板橋區板橋町3の269